
二人の僕と壊れたなにか

燎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人の僕と壊れたなにか

【Nコード】

N9315P

【作者名】

燎

【あらすじ】

ここは連続殺人事件が起こる町。今回の被害者は、うちの高校の校長だった。

その殺人犯は残忍で、非人道的。いわゆる猟奇殺人犯だ。壊れてる。

壊れてるんだ。僕だって、世界だって、彼女だって。

彼女だって。僕の隣で本を読む、彼女だって。

幾つもの命を奪った、彼女だって。壊れてるんだ。

（作者がライトノベルしか読んでこなかったため、1話の文章量がライトノベル1ページ分になっています。そのため文章の割にページ数が多くなるとは思います。その辺はご容赦ください）

プロローグ 始まりの物語（前書き）

試しに投稿します。

あくまで「試し」なので、いつ終わるか分かりませんが。

作者は中学生らしいです。

プロローグ 始まりの物語

僕は双子。弟は生まれてすぐに死んだ。

僕は弟。でも兄。兄は中に消えて行った。

自分自身は双子の兄と弟、果たしてどっちなのだろうかと自問すると、灰色の電信柱の如く硬直してしまうけども、結局どちらでもないんだと自答することで僕は電信柱から人間に戻る事が出来た。

そうだ、どっちでもいいじゃないか、そんなこと。

兄と弟、どちらかに決めつけようとするからいけないんだ。

だから二つ合わせて「僕」と呼ぶことにした。うん納得。

……そんな自問自答も、過ぎ去ったいつかの話。

これは昔から今までの話だけど、幽霊に取りつかれている状態に近い感覚を味わう事がある。一味違うけど。

まるで中から反乱分子が疼きだすような。

おかしいな、僕は僕であって一つなんだけど。

現在進行形で派生しつつある疑問。一回ひっくり返って過去に繋がります前に、ゴミ箱に捨てておかなくちゃ。

第1章 I PAGE 1

《第一章》

校長先生が死んだ。

いや、殺された。

それを知ったのは、朝っぱらから入ってきた連絡網の向こう側の震えた声を通してだった。

「もしもし……」

「どうしました？ ひどく狼狽しているようですね」

勉強用の回転イスに座りつつ、電話の向こう側の声に、軽い調子で問いかける。声の震えときたら、震度六級だ。

「いえ……あのう……その……お、驚かないで、くださいね」

「大丈夫です。多少の事では驚きません。さすがに『お前の後ろに連続殺人犯が立っている』と言われれば驚きますが」

人口八万人に満たないこの町でも、殺人事件は起こるものである。しかも今、現役バリバリの世間を騒がす連続殺人鬼様がこの町で活動中だ。警察の捜査を掻い潜って捕まらないあたり、なかなか才能あふれる殺戮者だと言えよう。

「あ……もしかして、もう、知っていたんですか？」

「いえ。知りません。少なからず良いことではないだろうかと予感しています」

受話器を耳に押し当てたまま、寝癖のついた頭をわしゃわしゃと掻き毟る。相手に失礼かと思ったので、欠伸は控えておいた。

第1章 I PAGE 2

「知ってるかも分かりませんが……っ」

落ち着きを取り戻したのも束の間。文末で息が詰まった。

「大丈夫です。何なりとお申し付けください」

多少場違いなセリフを追加してみた。電話越しの彼女の声色からして、特に影響も何もないだろうが。

「校長先生が……っ。校長先生が、殺され、たんですよ……っ」

「なるほど。詳しい状況を、お聞かせ願えますか？」

他人事なのに今にも泣きそうだ。この電話相手、僕にとってはただの見知らぬ中年女性でしかなく、名も知らぬ級友の母親。当校長とは知り合いでも何でもない。あくまで推測だが。そういえば名前を知らなくても友と呼べるのだろうか、とどうでもいい思考に一秒間を費やした。

「はい……。体育館裏の、松の木の下で、横たわる……。校長先生を、通行人が偶然発見した……。らしいです……」

「ほうほう」

いたって冷静な僕と、理性の淵を綱渡り状態で歩く声。その対比、コントラストがなんとも美しい。という訳でもない。

ちなみに僕はこの殺人事件に関しては何も関与していない。

でも、聞かなきゃいけないことがある。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9315p/>

二人の僕と壊れたなにか

2011年1月5日01時21分発行